

## 第18回「ハガキにかこう海洋の夢コンテスト」体験乗船

○松井宏泰・柴田桂・川上創・金井隆憲・藤井友紀子・武内境子・関野富貴（海洋研究開発機構），  
鈴木良博・佐野真奈美（新江ノ島水族館），天田未貴（京急油壺マリパーク），  
三森亮介（東京都葛西臨海水族園）

海洋研究開発機構では、未来を担う子供たちの海洋に対する夢や憧れ、興味喚起を目的として、ハガキに海洋への夢やアイデアを自由に描く「全国児童『ハガキにかこう海洋の夢コンテスト』」を実施している。第18回を迎えた平成27年度の応募数は22,660点であった。この中から入賞を果たした10名の受賞者と保護者を対象として、平成28年7月2日～3日に東京湾で学術研究船「白鳳丸」に1泊2日する体験乗船を実施した。なお本航海は、水族館等との連携を深め、海洋科学技術の理解増進のための試料・資料の取得、及び学芸員、機構職員等の人材育成も目的としている。

体験乗船中は、プランクトンネットによる表層のプランクトン調査を行った。参加者は、作業の過程を見学し、採取されたクラゲやタツノオトシゴなどの生き物について、水族館関係者の解説を聞きながら観察を行い、レポートにまとめた。また、水族館関係者から東京湾の生物の話や体験談などを聞くレクチャーの時間を持った。さらに、船員指導のもと、ロープワーク体験を行った。

短い時間ではあったが、研究船に乗船・宿泊し、専門家から生物について直接学び、船での生活や船で働く人とのふれあいなどを通して海洋調査の現場を体験できた。また、機構職員も東京湾の生態系について知識を深めた。

本体験乗船により、海の科学や技術を体験したことで、海への興味と理解につながったと思われる。また、将来の海洋科学技術へ携わる人材の育成に寄与できたものとする。



プランクトンネットで採取した生き物を観察する様子



水族館関係者から詳しい解説を受ける様子